

事業所名

ありこる一む芦北 放課後等デイサービス

支援プログラム

作成日

7年

3月

1日

法人（事業所）理念		こうらくえんの「幸」は、私たちも周りの人も幸せにすることを表します。こうらくえんの「楽」は、私たちが楽しく仕事をする事で周りも楽しくなることを表します。こうらくえんの「縁」は、私たちと縁のある人たちへの感謝を表します。よって、私たちは地域と共に成長するために子どもたちの可能性を信じ日々努力します。						
支援方針		【子どもと関わる】・子ども達の特性や個性を大切にします。・子ども達がいつも中心であると考えます。・子ども達の思いが輝くように心を込めて寄り添います。 【家族と関わる】・様々な家庭があるという事を理解し受け入れ家族との信頼関係を築いていきます。・家族に安心を与えられるように、常に情報を共有し家族との信頼関係を築いていきます。・家族の悩み相談には心から耳を傾け、気持ちに寄り添い家族との信頼関係を築いていきます。						
営業時間		13時	50分から	17時	0分まで	送迎実施の有無	あり	なし
支 援 内 容								
本人支援	健康・生活	【健康状態の把握】来所時の検温・健康観察・連絡帳での体調や睡眠時間のチェックを行います。自分で検温しスタッフに伝えることで、日頃の体温を知り体調の変化に気付けるようになります。ミーティング時に「今の気持ち」をシートに記入（○つけ）し、小さな体調の変化、気持ちの変化に気づき、伝えられるように練習します。 【基本的な生活スキルの獲得】荷物の整理、着替え後の衣服の整理、身だしなみ、丁寧な手洗い、排泄後の処理など、視覚支援や環境設定を行い、自発的により丁寧にできるようサポートします。 【感染症や病気、ケガへの予防や対応】咳、鼻水などの症状があるときなど、マスク着用を促します。また、大きな学校行事の前や町内で感染症が流行っているときなど、手洗いうがい、マスクの着用を促します。熱中症などの予防についても「どのような時にどう対処するとよいのか」を伝え経験していきます。						
	運動・感覚	【粗大運動】ルール遊びの中に、またぐ、くぐる、かがむ、渡る、ジャンプ、バランス持続などを取り入れ、楽しみながらバランス感覚やボディイメージを高めていきます。また、同時に複数の動作を取り入れ、複数のタスクに対応する力を育てます。 【微細運動】ルール遊びに、生活の中で使う道具を取り入れたり、紐結びなどの手先の操作を経験します。事前の練習でチェックし、苦手な動作には手を添え丁寧に方法を伝えます。 【製作活動】様々な材料や道具を使って作品を作る中で、感触、におい、音などに触れます。道具を使う際の力加減や手指の使い方、道具を使いやすい姿勢の保持なども経験していきます。それぞれの感覚が苦手な子には、道具などを工夫し、少しずつ感覚を受け入れられるよう支援します。 【姿勢】安定した姿勢で話を聞いたり、活動に取り組めるよう、環境の調整をします。						
	認知・行動	個々に合わせたスケジュールを使用し、見通しを持ち、自主的に切り替えや活動への参加ができるようにします。活動の区切りを時計を使って知らせ、時間を意識して自分で切り替えができるように、時計の提示の仕方、声掛けを工夫します。グループ活動では、ルールや決まり事、チーム分け、勝ち負けの結果などを視覚支援を用いて伝えます。製作活動でも手順の視覚化を行い、自分で確認し取り組めるようにします。視覚支援では、文字、イラスト、写真などを個々に合わせて使用していきます。						
	言語コミュニケーション	挨拶、要求、ヘルプ、お礼、報告など、場面に必要な言葉を促し、自発的な発信につなげていきます。特に学習場面での、「手伝ってください」「わかりません」などのヘルプが出せるように、また「終わりました」と報告する、「〇〇してもいいですか」と尋ねるなど、学校生活での困りが減るよう、「どんな時に、誰に、何と云うか」を練習していきます。選択活動では、遊びを選択し、友達と誘い合って遊べるようにします。相手にどのように言えば伝わるのか、経験を積んでいきます。また、遊びを断る際の相手への伝え方も、一緒に考えながら経験を積んでいきます。 降所前の「振り返り」の時間に、5W1Hを意識し、文章で出来事や気持ちを伝えられるように表を使って練習していきます。 子どもの気持ちや思いに寄り添い、共感し、人とのやり取りの楽しさ、人に伝わった嬉しさを味わえるようにします。						
	人間関係社会性	小集団での活動に参加すること、着目できること、話を聞くことを目標に、成功体験が積めるよう、参加したくなるような楽しい雰囲気づくりを行います。ルール遊びでは、チーム内で順番を決める、作戦を考える、友達を応援したり協力したりして活動するなど、スタッフがサポートしながら子どもが主体となって活動できる場にします。達成感や自己肯定感が得られるよう、苦手な活動にも少しずつ参加できるように、声掛けやサポートをします。勝ち負けにこだわらず、少しずつ感情をコントロールし、最後まで取り組めるよう、悔しさを認め次に向かう気持ちに切り替えることの大切さを伝えていきます。選択活動でのルール遊びでは、子ども同士でルールを決め、確認し、遊ぶを目標に、スタッフが助言などの支援を行います。集団での遊びが苦手な子に対しては、入れそうな遊びの時に誘う、本人の意思を尊重しながらできる範囲で参加を促すようにします。						
家族支援	【相談】子どもの困り、家族（両親、祖父母、きょうだい）の困りに対し、随時相談を受けます。 【療育の見学】子どもの活動の様子をいつでも見ただけです。できていることの確認、苦手なことへのサポートの仕方を一緒に考えていきます。 【保護者会】保護者同士の交流の場として活用していただけます。	移行支援	療育でできていること、必要な支援方法を学校や放課後児童クラブ等と共有し、個別・小集団でできていることが学校等でもできるよう、支援の般化を目指します。 ライフステージの切り替えを見据え、移行先との情報共有、関係機関と連携を取ります。次のステージへ安心して進めるよう、本人、保護者と一緒に準備をしていきます。					
地域支援・地域連携	子どもが通う学校等との情報共有、支援方法や環境調整において会議の開催を行います。 関係機関（福祉・保健・教育・医療）との連携を行い、地域で安心して過ごせるよう支援します。 長期休暇に、地域の高校や施設を利用し、地域の方々との交流を行います。	職員の質の向上	スタッフの専門的な知識やスキル、支援の質の向上を高めるため、研修会等に参加します。（法人内研修・地域での研修・オンライン研修など）					
主な行事等	季節の行事・製作：夏祭り・ハロウィン・クリスマス・お正月・節分など 保護者会：勉強会・交流会・茶話会など 定期的な訓練の実施：火災・地震・水害・不審者など							